

文化経済学会<日本> 2025年度研究大会 分科会プログラム

特別テーマ関連分科会 7月5日(土) 10:30-13:00

1-A 特別テーマ関連分科会

座長 綿江 彰禪(一般社団法人 芸術と創造)

論題	AI社会における文化政策とデジタル社会の持続可能性
発表者	河島 伸子(同志社大学)
共同発表者	八木 匡(同志社大学)
討論者	勝浦 正樹(名城大学)

論題	音楽ストリーミングサービス市場における日本 -国内市場と国際市場の動向-
発表者	高良 佑樹(文教大学)
討論者	勝浦 正樹(名城大学)

論題	デジタル時代におけるテレビ放送産業の構造変化と持続可能性
発表者	西田 有希子(同志社大学大学院)
討論者	高良 佑樹(文教大学)

論題	親と子のデジタルゲーム行動に関する研究
発表者	仲村 敏隆(早稲田大学)
討論者	高良 佑樹(文教大学)

1-B 特別テーマ関連会員企画セッション 10:30~12:15

テーマ	文化政策研究における人文情報学的手法の導入
企画趣旨・内容	文化政策研究の対象とする領域のデータはどのようなものがあるのか。近年、政府文書もデジタルでの公開が基本となってきた状況下において、そのデータの活用の可能性はどのように広がるのか、そのことによって何がわかるようになるのかということを具体的な事例を通して考えてみる。いくつかの視点があると考えているが、現在は以下の視点で考えている。 (1) データを取得・収集する(情報をデジタル・アーカイブ化する)ことが、まだ途上にある(もちろん、アーカイブ化しづらいメディアが多いことも起因して)。 (2) 体系的なデータを現在の環境において構築することができるか (3) (2)を苦勞して作り上げて「できること」とは何か。研究の拡張性を高めていくために、以上の視点について具体的な事例を通して、検討してみることとする。
登壇者	司会進行: 小林真理(会員、東京大学大学院人文社会系研究科、教授) 笠井康平(東京大学大学院人文社会系研究科博士課程1年) 溝上心太(東京大学大学院人文社会系研究科博士課程1年)

分科会① 7月6日(日) 10:00-12:30

2-A まちづくり

座長 古賀 弥生(芸術文化観光専門職大学)

論題	酒蔵のある伝統的町並み保存の経済効果と教育効果:観光口コミサイトの投稿の解析
発表者	谷口 みゆき(京都橘大学)
討論者	滋野 弘毅(京都産業大学)

論題	趣味縁の拠点は都市においてどのような機能を担っているのか
発表者	加藤 康子(北海道大学大学院)
討論者	滋野 弘毅(京都産業大学)

論題	大阪における都市文化政策の展開と今日への課題
発表者	本田 洋一(大阪市立大学)
討論者	吉田 隆之(大阪市立大学大学院)

2-B 伝統文化・クリエイティブ産業

座長 高島 知佐子(静岡文化芸術大学)

論題	日本の伝統染色の戦後史と持続可能性に関する考察
発表者	保田 優太(経済産業省)
討論者	安嶋 是晴(富山大学)

論題	茶と香の経営戦略—老舗企業にみる伝統と革新のダイナミズム
発表者	飯塚 まり(同志社大学)
討論者	安嶋 是晴(富山大学)

論題	気候変動が地域の特産農作物に及ぼす影響と日本の食文化の持続可能性 ～老舗和菓子屋のフードシステム
発表者	森崎 美穂子(帝京大学)
討論者	川北 眞紀子(南山大学)

論題	花街の支援—京都「おおきに財団」の活動を中心に—
発表者	中原 逸郎(楓錦会)
討論者	川北 眞紀子(南山大学)

2-C 計量分析

座長 田中 敬文(東京学芸大学)

論題	ファンによる推し活の経済効果とコミュニティ型の市場の媒介者の役割
発表者	荒木 由希(金城大学)
共同発表者	村本 睦子(北陸先端科学技術大学院大学)
討論者	八木 匡(同志社大学)

論題	幼少期の文化芸術活動経験と労働生産性
発表者	飯田 星良(追手門学院大学)
討論者	八木 匡(同志社大学)

論題	CIL(Cultural Innovation Leadership)における文化・芸術事業支援実践 — 文化・芸術の自然科学的要素分解の試みと支援応用
発表者	泉志谷 忠和(京都大学大学院)
討論者	松本 文子(大阪大学／国立民族学博物館)

論題	日本の文化システムも国際的な紛争を忖度するか？文化システムと政治システムの依存性の検証
発表者	保原 伸弘(東京福祉大学)
討論者	片山 泰輔(青山学院大学)

2-D 会員企画セッション I 10:00～11:45

テーマ	人間の安全保障としての文化芸術(仮題)—「常識」にとらわれない「社会包摂型劇場経営」と新しい価値を創出する「新結合」—
-----	---

企画趣旨・内容	本セッションは、すべての人々が、いかなる環境にあらうと生きる意欲を持って生きるための社会のあり方を変革する拠点機関としての劇場音楽堂がその社会的役割を果たすことについて深く議論することを目的とします。 劇場音楽堂は、差別や排除や孤立から最も遠い存在ではなく、いかなる環境にあっても憲法第十三条にある『個人として尊重』される『幸福追求権』が保障される場所でなければなりません。衛氏は、「芸術ではなく、人間がど真ん中に据えられている場でなければならない。劇場音楽堂が「人間の家」であり、「社会機関」である」と述べると共に、「社会包摂型劇場経営は、芸術機関に深く根を張っている「常識」にとらわれず、社会政策の概念である「社会包摂」を結合させるソーシャル・ブランディング手法である」とも述べています。 可児市は、人口 10 万人の基礎自治体でありながら、従来の劇場定義を変容させた全国唯一の社会包摂型の劇場ですが、その経営はあくまでも手段であり、その経営によってどのような社会を成立させるかが最終目的であると説きます。また、愛好者のみに偏重する現行の「芸術教養型」アーツマネジメントに問題提起し、前例の『常識』を逸脱できる創造性と革新性が求められる「経営管理型」アーツマネジメントに公共劇場の未来を託しています。いくら文化芸術が好きでも、その知識があっても、人間との関わりあいの中で関係づくりや問題解決のできる能力、複雑な応用問題を瞬時に解く人間力がなければ、現場職員として何の役にも立たないからです。 1912年に発表した シュンペーター『経済発展の理論』の「新結合」(new combination) という概念は、「従来の常識では組み合わせることのない要素を組み合わせることによって、新たな価値を創造すること」と定義されています。この枠組みを借りれば、文化芸術における「イノベーション」とは、いわば「思い込み」や「常識」から離脱して、思いもよらぬものを結合させて新しい価値を創造することなのではないか。登壇者や参加者と共に学び合い、議論したいと考えています。
登壇者	パネリスト： 衛紀生 氏 佐々木雅幸 氏 中川幾郎 氏 司会： 可児市文化創造センター a la 中堅・若手 職員 総合司会； 柴田英杞

分科会② 7月6日(日)14:20-16:50

3-A 文化教育

座長 萩原 雅也(大阪樟蔭女子大学)

論題	ミュージアムにおける教育普及活動の歴史的変容
発表者	谷口 彩(SAI Co-Cre Labo)
討論者	川井田 祥子(鳥取大学)

論題	バリアフリーコンサートの実践的研究ー滋賀大学教育学部附属音楽教育支援センターおとさぽの事例をもとに
発表者	林 睦(滋賀大学)
討論者	川井田 祥子(鳥取大学)

論題	美術実技系学科卒業後の状況について
発表者	井上 智晶(東京大学大学院)
討論者	佐野 直哉(青山学院大学)

論題	アートボランティア活動が生み出す地域創造のダイナミクスとは？
発表者	藤原 旅人(東京藝術大学)
討論者	佐野 直哉(青山学院大学)

3-B 文化観光

座長 竹谷 多賀子(龍谷大学)

論題	文化観光の理念と政策的対応の誤謬ー北九州市の文化事業を事例に
発表者	田代 洋久(北九州市立大学)
討論者	阪本 崇(京都橘大学)

論題	仮想評価法とコンジョイント分析のミックスドメソッドによる公立ミュージアムの価値評価ー金沢21世紀美術館を事例にー
発表者	北川 有美子(金沢大学大学院)
共同発表者	佐無田 光(金沢大学)
討論者	阪本 崇(京都橘大学)

論題	地域型現代美術プロジェクトにおける文化起業型コミュニティ開拓ー東京都山間部の『あきがわアートストリーム』を事例に
発表者	岡田 智博(東京藝術大学)
討論者	佐々木 雅幸(大阪市立大学)

論題	ポップカルチャーを活用した地域活性化ー考察
発表者	簡 逸威(鳥取短期大学)
討論者	清水 麻帆(文教大学)

3-C 会員企画セッションⅡ 14:20～16:05

テーマ	伝統産業としての繊維・アパレル・ファッション産業
------------	--------------------------

企画趣旨・ 内容	2023年9月に部会「産業としての伝統工芸研究会」を設立し、これまで4回の研究会を開催してきた(4回目は2025/3予定)。本研究会の関心は、原材料の調達から製品の流通までの全てのプロセスが不可分に結びついている産業として、伝統工芸を維持していく必要があるという点にある。 今回は、前近代から地域の経済を担い、近代化によって発展した繊維産業をアパレル、ファッション産業を含むものとして捉え、産業構造の変化と各産地の取り組み、さらには繊維産業を支える衣文化の変化に着目し、以下の発表を通して伝統産業としての繊維産業の特徴と未来について議論する。
登壇者	発表： 江上美幸(日本経済大学)「価値議論の視点から考察する日本ファッションブランドのブランドアイデンティティ」 奥山雅之(明治大学)「衣服製造産地の構造変化」(仮題) 馬場 武(鹿児島大学)「大島紬織物産業の現状と課題」(仮題) コメンテーター： 近藤誠一(TAKUMI -Art du Japon／国際ファッション専門職大学) 滋野浩毅(京都産業大学) コーディネーター： 後藤和子(摂南大学) 高島知佐子(静岡文化芸術大学)

3-D 会員企画セッションⅢ

テーマ	文化経済学と実証分析ー永山貞則先生追悼セッションー
企画趣旨・ 内容	文化経済学会＜日本＞の第3代会長を務められた永山貞則先生が、2024年11月にご逝去されました。永山先生は、文化経済学会＜日本＞の立ち上げに深く関わられるとともに、文化に関する統計データの整備や統計データを利用した客観的な実証分析に多大なる貢献をされるとともに、共同研究などを通じて多くの研究者を支援・指導してこられました。この会員企画セッションでは、永山先生が文化経済学において有用な統計として特に重視してこられた総務省「国勢調査」・「社会生活基本調査」及び「現代青年の芸術意識と芸術活動調査」(学生調査)などを取り上げ、永山先生の薫陶を受けた研究者を中心に、それらの統計データの文化経済学における意義や実証分析の結果に関する報告を行い、フロアの参加者も交えての議論を通じて、永山先生の文化経済学におけるご貢献を改めて評価する機会をもちたいと思います。
登壇者	有馬昌宏*(兵庫県立大学) 勝浦正樹(名城大学) 周防節雄(兵庫県立大学) 他数名(交渉中) * 非会員